



YMCA 大阪青年



2024年5月1日発行
1916年6月1日創刊
発行 / 小川 健一郎
編集 / 大阪 YMCA 広報室
〒550-0001
大阪市西区土佐堀 1-5-6
Tel 06-6441-0894
Fax 06-6445-0297
URL: <http://www.osakaymca.or.jp>



一方、子どもや青少年のための現実社会のサードプレイスの重要性は、ますます高まっています。そして、これまで以上にYMCAには大きな期待が寄せられるでしょう。

「私たちは創立からこれまで変わらず、人の『いばしょ』であり続けてきました」

大阪YMCA「VISION150約束文」の冒頭の一文です。Z世代やα世代にとって現実社会におけるサードプレイスとしての「いばしょ」の拡充が求められます。特に、スポーツや野外活動などのウェルネス事業は、人との交流と繋がりから身体的、精神的、社会的に大きな成長を得られるウェルビーイングなサードプレイスです。これまで、日本で、世界中で数えきれない人がウェルネス事業を「いばしょ」として自分を見つけ、人と繋がり、成長してきました。私も、その恩恵を受け続けているひとりです。

子どもや青少年に真っ直ぐに向き合い、共感し、理解し、寄り添い、共に学び、共に歩み、人々のウェルネスそしてウェルビーイングの実現を支援する文化は、YMCAそのものです。そして、現実社会の「いばしょ」とオンライン上の「居場所」が混在する中で、Z世代やα世代は独自の創造力を発揮し、サードプレイスを創り、拡張し、選び、活用していくでしょう。さあ、彼らのために、彼らと共に「私たちの“人と繋がり、語らう『場』づくり”の文化と想像力を今こそ発揮する時」(VISION150約束文より)です。

YMCAとサードプレイス： 青少年のウェルビーイングのために

「サードプレイス」という言葉をご存知ですか？アメリカの都市社会学者であるレイ・オルデンバーグが提唱したこの概念は、自宅(ファースト・プレイス)や学校・職場(セカンド・プレイス)以外で、人々が自由に集まり、交流し、コミュニティを形成する第3の「居場所」のことです。人はサードプレイスを持つことでストレスが軽減されたり、自分らしさを自覚したり、新たな情報や価値観に触れたり、心が豊かになる、つまりウェルビーイングになると考えられています。

近年、子どもや青少年を取り巻く環境は大きく変化しています。IT(情報技術)や

AI(人工知能)の急速な発展、デジタルデバイスの普及がその背景にあります。Z世代(1996年から2010年生まれ)やα世代(2010年から2024年生まれ)と呼ばれる子どもや青少年は、様々なデジタルデバイスを使いこなし、SNSやゲーム、メタバースなどを通じて世界中の人々とつながり、情報を共有し、共感し合う「居場所」をオンライン上に形成しています。彼らは従来の枠にとらわれず、自分らしい「居場所」を見つけ、作り、そこで自由に表現し、成長することができます。オンライン上での時間と空間も、サードプレイスとして彼らのライフスタイルに深く浸透しているのです。



大阪体育大学 教授
公益財団法人大阪YMCA
評議員

ふじもと じゅんや
藤本 淳也

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人のびとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。

ユース事業部(公益財団法人)

ユースの声

一人ひとりの色が輝く場所

北YMCA ユースボランティアリーダー じんぼ まりえ **神保 真理恵**(らばんリーダー)

YMCAユースボランティアリーダーとしての活動は、私に「ここに居ていい」という安心感を与えてくれました。私がリーダー活動を始めた3年前、コロナ禍で人との直接的な繋がりや機会が激減しました。また、何に対しても意欲が湧かなかったり、人と話すのが億劫になったり、人にどう見られるかが怖いという感情を抱くようになりました。このような状況でも、YMCA活動を通して自然や人との関わりが生まれ、自分が「自分のままでここに居ていい」と思えることが増えていきました。それは、私と関わってくださった先輩・同期・後輩のリーダーたちやスタッフ、子どもたち、多くの人との時間によって少しずつ気持ちに変化が生まれ、その安心感がボランティア活動の原動力になっていったと確信しています。

私は、あと1年のリーダー活動で、関わる一人ひとりの色が輝く機会を創っていきたくと思っています。それぞれ持っている目標や悩み、好きなことは様々ですが、その一人ひとりの良さが発揮でき、またその色が重なり、混じり、組み合わせさせて、新たな色が生まれる、そんなみんなにとっての場所にしたいと考えています。そのために、まずは私自身が人との時間を大切にすることを続けていきたいと思っています。



ユースボランティアリーダーとして大切にしていること 土佐堀 YMCA ユースボランティアリーダー きや ゆうか **木屋 結佳**(きいリーダー)



私がユースボランティアリーダーとして活動する中で一番大切にしていることは、子どものありのままを「肯定すること」です。

野外活動クラブやキャンプでグループリーダーとして活動する時に、「薪で火をつけられるかな?」や「スキーで上手にすべられるかな?」など、子どもたちが初めて取り組む場面に立ち会うことがあります。私はこういった場面では、子どもたちが「失敗したらどうしよう」などのマイナスな感情ではなく、「やってみよう!」と前向きにチャレンジし、自分に自信を持つこと・達成感を得ることできるように関わることを心がけています。そして、一步を踏み出したときに「できたね!」と声をかけること、子どもの自己肯定感を高めることが大切だと考えています。こう考えるようになったのは、私がリーダーを始めて間もない頃、活動に参加していた子どもがなかなか自分自身で前向きになることができないときに、どう寄り添ったらいいのかを私自身が悩んだことがきっかけでした。

私は、YMCAの活動を通して、一人ひとりが「自分にはできることがたくさんある!」と自信を持つことができるように、これからも子どもたちの多彩な一面を見つけ、肯定しながら、リーダー活動を続けていきます。

ユース事業部(学校法人)

OYISがSDGsの取り組みから国際学校賞を受賞

大阪YMCAインターナショナルスクール
幼稚園・初等部校長 ドゥウェイイン プリモ **Dwayne Primeau**
中等部・高等部校長 マーク ビールズ **Mark Beales**

大阪YMCAインターナショナルスクール(OYIS)は、ISCリサーチ (<https://iscresearch.com/>) のインターナショナル・スクール・アワード2024のコンペティションで、日本のインターナショナルスクールで唯一表彰を受けることができました。

受賞したプロジェクトは都市型ガーデニングに焦点を当て、校内で農産物を有機栽培したり、余った食品を集めて「関西フードバンク」に寄贈したもので、コミュニティ・プロジェクトとして「在日米商工会議所(ACCJ)」と共同で実施されました。

OYIS幼稚園のマーク・ホワイト教諭が中心となって、保護者ボランティアも一緒にリサイクル木材で高床式ガーデンベッドを作り、そこに腐葉土を満たして苗床が作られると、幼稚園児を中心に野菜の苗を植え、育て方を学習していきました。

また、中学生を中心に高学年の生徒たちは、農産物や各家庭で余った食品を集め、自ら関西フードバンクに連絡し持参しました。学校全体でもプロジェクトを支え、学園祭など大きな学校行事において学校に寄付される参加費の代わりに缶詰を持参するよう保護者に依頼し、併せてフードバンクに寄付

することができました。本校での試みの成功により、ACCJは他のインターナショナルスクールとも協力し、同じように率先して活動ができるように支援し始めています。フードバンクを支援するOYISの活動はまだ続いています。この冬にはインスタントの味噌汁を集める活動を実施し、12年生(高校3年生)が関西フードバンクに持参し、温かい味噌汁を必要としている人たちに届けることもできました。

今回の受賞は、主に環境・飢餓・貧困・健康など国連の持続可能な開発目標(SDGs)のいくつかのテーマの推進に尽力し、より広いコミュニティに影響を与えようとする生徒とスタッフの努力が受賞に繋がったものです。下記リンクにて動画を是非ご覧ください。



ISCリサーチ受賞紹介サイト
<https://iscresearch.com/winners-of-the-international-school-awards-2024/>



受賞動画
<https://www.youtube.com/watch?v=xvW00okJaAA>



社会福祉事業部

あわぎ保育園分園を開園しました!

YMCAあわぎ保育園 保育士 おち えみ **越智 絵美**

4月1日(月)、ついに「あわぎ保育園分園」が開園し、0歳から5歳児までをお預かりする保育園としての一步を踏み出しました。分園には5歳児が1名入園し、進級した3歳児の6名と合わせ7名で新年度をスタートしました。3歳児はつきぐみ、5歳児はおひさまぐみです。



進級したつきぐみの園児は、ちいさな身体に大きなリュックを背負って、先生やお友だちと顔を見合わせながら「一緒だね」と喜んでいます。頑張っている姿はとても誇らしげに見えます。リュックの中に自分の着替えを入れて、自分で持ち運

び、自分で管理をします。自分の周りのことや物に責任を持って、「自分でやる!」「みて、今日はこれにしたの」とやる気に満ち溢れています。保育園でやってみたことを家でお話ししたり取り組んでみたりする。その逆もちろんありますが、その繰り返しが自己肯定感に繋がります。

おひさまぐみの園児が1名入ることによって戸外での遊びも活発になり、公園では追いかけてドッジボールなどを楽しんでいます。分園と本園は徒歩5分ほどの距離がありますが、慣れ親しんだ江戸堀公園で0~2歳児の本園の子どもたちと公園で交流する機会をもっています。

これからも、子どもたちの成長を丁寧に見守り、共に喜び合えるYMCAあわぎ保育園でありたいと願っています。



総合研究所

YMCA研究発表会でアハ体験

YMCA総合研究所 副所長 しげのぶ なおと **重信 直人**

2月28日(日)、大阪YMCA会館2階ホールを会場に、YMCAの教職員が日々取り組んでいるプログラムの効果検証や次の時代に繋がるプログラムシーズ(社会課題解決の種)発見のための調査研究結果について、成果を皆で共有することを目的に「2023年度YMCA研究発表会」を行いました。

当日は大阪YMCAの教職員、アンバサダー、理事・評議員、会員など80名を超える人が集い、互いに「ハッとする」刺激を受けあう時(アハ体験)となりました。

発表演題と発表者

- ①「ウェアラブルデバイスを活用した機能訓練カリキュラム開発研究」
— デジタル機器を福祉活動に活用しよう —
社会福祉事業部 清家球平
- ②「コロナ禍における健やかな身体を育む取り組み」
— 幼児期の運動の重要性をデータで診る —
こども園事業部 矢野紗由里
- ③「YMCA 学院高校の起立性調節障害生徒における睡眠時間とストレスの実態調査」
— デジタル&リアルのハイブリッドで健康回復へ —
ウエルネス事業部 津田晃男、川良昌宏、切通菜摘
- ④ 国際的視野を育む高等学校国語科教育実践—ディベートで難民問題を扱う—
— 青年が考える近未来の社会とは —
大阪府立水都国際中学・高等学校 濱野天司郎
- ⑤「COV-19前後におけるYMCAフレイル予防講座受講者の体力と口腔機能の取り組み効果」
— 口の健康は全ての世代に重要です —
YMCA総合研究所 重信直人、梅花女子大学 泉野裕美



〈参加者の感想〉*抜粋

- ・「YMCAとして社会に何ができるか」「YMCAの立ち位置からのメッセージは何か」がどの研究にも問われていた。
- ・今回の考察と結果は、多世代に関わるプログラムを行うYMCAだからこそ、将来的に社会に提供する価値を見える化することができ、共創や連携が促進すると思う。
- ・シニアの課題がそれぞれの世代の課題につながっていることを発表からあらためて考えることができた。
- ・教職員、役員、アンバサダー、YMCA関係者が一堂に集い、共に考える機会を持つことはとても有益であり、今後も継続することが重要だと思う。

和泉市温水プール(サン燦プール)を 大阪YMCAが運営します！

和泉市温水プール(サン燦プール) 施設長 なみき さとこ 並木 聡子

大阪府南部の泉州地域に位置する『和泉市』。大阪のベッドタウンとして開発もされ『都会×田舎＝“トカイナカ”』として暮らしやすい和泉市に、大阪YMCAが2024年4月1日から和泉市指定管理施設として和泉市温水プールを運営することになりました。「サン燦プール」の愛称で地域の方にご利用いただいています。

子ども達に大人気のウォータースライダーを楽しめる子ども用プールをはじめ、5本のコースが並ぶ25メートルプールなどを備えているので、浮き輪などをお持ちになって楽しい時間をお過ごしいただけます。また、子どもから成人を対象にしたスイミング教室も実施しています。

スタジオでは、エアロビクスやヨガ、ストレッチなど、高校生以上が参加できる様々な健康増進プログラム、幼児から中学生までが参加できるスポーツ教室や、ジャズ・ヒップホップのキッズダンス教室など、多彩な教室やレッスンを実施しています。そのほか、トレーニングルームもご利用いただけます。

スタッフ一同、皆様のご利用をお待ちしています。

和泉市温水プール(サン燦プール)

大阪府和泉市上町584-1
TEL：0725-46-3131

HPはこちら



インフォメーション

大阪YMCA創立記念礼拝のお知らせ

大阪YMCAは1882年6月4日に創立し、会員、ボランティア、メンバー、職員の皆さまとともに使命実現を目指して歩んでまいりました。創立の志に立ち返り、心新たに未来へと歩みを進めるため、下記の通り創立記念礼拝を開催いたします。皆さまと、祈りと希望を共有するひと時にしたいと願っております。また、礼拝後に皆さまとともにVISION150に親しむ取り組みを考えています。参加方法などの詳細は、後日、大阪YMCAホームページ等でお知らせいたします。

日時：2024年6月1日(土) 10:00～

場所：大阪YMCA会館 2階ホール(大阪市西区土佐堀1-5-6)

奨励：小西 望 牧師(日本キリスト教団 天満教会)

第361回 早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話しをいただき、人生の歩みを分かち合う恵みの時としています。

日時：2024年5月17日(金) 7:30～8:30

証し：杉村 徹さん(大阪YMCA本部事務局 スタッフ)

場所：大阪YMCA会館 10階 チャペル(大阪市西区土佐堀1-5-6)

※中止の場合は大阪YMCAホームページ「NEWS 新着情報」でお知らせいたします。



【お問い合わせ】

大阪YMCA本部事務局
TEL：06-6441-0894
E-mail：info@osakaymca.org

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2024年3月度報告(敬称略)

【新規会員】

上曾山 遥太
NGUYEN HUYNH GIAO
宮園 海地
山田 莉葉
山本 茉奈

大西 可奈子
鍛冶田 雅弘
粕谷 和彦
金岡 重雄
神谷 尚孝
川島 洋一
小島 宏樹

竹内 靖子
津野 忠昭
堂本 隆子
富賀 理恵
中村 茂高
中村 隆幸
西野 陽一

松野 五郎
松本 武彦
松本 三枝子
ミツダ ベンジャミン

南出 和余
村上 徳光
森 雅史
森浦 隆之
文字 文男
八束 浩一
柳谷 利起

山形 浩一
山口 ひかる
山崎 憲
山本 雅司
脇本 博

【継続会員】

天野 利男
有田 和子
石原 福造
出原 廣太
市田 恒夫
伊藤 正尚
井上 都志弘
井上 陽子
猪瀬 正雄
岩坂 二規
岩永 和子
上田 乃生子
遠藤 通寛
遠藤 通寛

後藤 寧々
小西 和子
齋藤 中哉
桜井 和之
笹田 英生
佐藤 祐規子
志田 育夫
高岡 正明
島田 榮一
清水 真一
小路 修
末岡 成夫
杉本 恵俊
高木 宏之
滝口 敏行

西村 耕
橋本 圭子
橋本 照夫
長谷川 洋一
廣田 康人
福島 文子
福山 正和
藤井 道雄
本多 勝弘
前田 貴史
前出 孝子
牧口 望
増成 恒哉
松尾 博之
松下 徹

【継続賛助会員】

共栄社化学株式会社
京王観光株式会社
株式会社甲南保険センター
株式会社西島製作所

大阪YMCAクリスマス献金へのご協力 ありがとうございました。

(敬称略)

井之上 芳雄
井上 礼子
井村 玉恵
小川 郁美
鍛冶田 雅弘
片山 毅
木下 浩美

有限会社日下石油商事
高鶴 佳代子
高鶴 佐智子
小島 フクミ
小島 明子
坂本 良子
泰地 絹代

竹内 愛子
武田 文男
谷口 美代
谷自動車
チュー環境サービス
槽泊漁業協同組合
内藤 さすみ

南海プランナー
西内 真美
橋本 恵典
福富工業株式会社
株式会社マカン
宮繁 博
森清浄社

大阪YMCA
ホームページ



ボランティア
スクエア

